



私にもできる。お買い物でカレン族を応援

私の妹は2年ほど前からタイのチェンマイで暮らしている。11月には雨期も終わって観光シーズンだから一度遊びにおいでと誘われ、11月17日から10日間出かけた。日本からの直行便はなく、バンコクで乗り換えた。

街を走っている車は、トヨタ、ホンダ、マツダなど日本車が圧倒的に多く、バイクもやはり日本製が多い。そして、驚いたのは日本のコンビニエンスストア(セブンイレブン)の店舗の多さだ。100~200メートル間隔にある。街を歩いていると、織物や竹など自然素材を使ったインテリア雑貨や家具などを扱う店が目につく。チェンマイ周辺は、古くから手工芸やアジア雑貨の工房が多く、実用品やインテリア用の良い物が買えると評判らしい。

いつも旅行をする時は、ガイドブックで下調べをする。その中に、おすすめのお店として「ソップモエアーツ(Sop Moei Arts)」の記事があった。織物や竹製品など、カレン族の人たちによる手作りの品物を扱う。カレン族の伝統を守りながら、自立を援助する非営利団体による運営と紹介されていた。

どんなお店なのか、どんな作品があるのか見てみると、宿のある旧市街から歩いて向かった。ピン川にかかるナコーピン橋を渡って、すぐ川沿いに右に曲がると左手にあった。お店のたたずまいは、日本家屋を思わせる落ち着いた感じだ。中に入ると、壁掛けやバッグ類、かご、クッションなどが美しく飾りつけられていた。どれも素晴らしいが、考えに考えて、最初に手にとった青と白の縞のショルダーバッグを買い求めた。

その袋の中の小さな紙には、こう書いてあった。「市場でより好まれるデザインの商品を作り、適正かつ公正な価格で販売することによって生産者は労働の対価に見合った収入を継続的に得ることができて、生活を向上させることができる。それを目的としている」

ホームページによると、1977年にケント・グレゴリー夫妻が地域の衛生環境を改善するため、北タイの山奥、ソップモエの小さな村に住み着いたことが始まりだ。夫妻はカレン族の村々で栄養指導を行い、食料の安定確保のために農業技術の普及にも取り組んだ。食料や衛生環境を改善するには現金収入が不可欠。そこで、現金収入を得るための方法として着目したのが、カレン族の女性たちに伝わる織物技術や男性たちによるバスケット製作である。外国のデザイナーの協力も得て、少しずつ斬新なデザインのものづくりに挑戦してきた。そして、販路拡大を目指して1997年にチェンマイにショップ「ソップモエアーツ」を、翌年にはバンコク店もオープンした。バンコク店は、カレン族支援の主旨に賛同した日本人ボランティアの協力を得て、バンコク在住の日本人の間でも広く知られるようになってきたそうだ。カレン族の人々が、ひとつひとつ手作りしているという品物は、どれも素敵なものばかり。次にタイに行くときも、必ず立ち寄りたいと思っている。

ショップ「ソップモエアーツ」



購入したバッグ



執筆者：藤谷マルミ
旅行が大好き！国内も海外もいろいろ出かけては、出会いと発見を楽しんでいます。

やってみなくちゃわからない



ぼんじりさんより

高校時代までボランティアとは縁がなかった私でも、今ではボランティアが生活の一部。きっかけはどこに転がっているかわかりません。まずはとにかく一歩、足を前に踏み出してみることで何かが変わるかもしれません。

ある日のぼんじりさんの1日

- 10:00 : キャンプ場到着
- 12:00 : キャンプファイヤー準備
- 14:30 : 飯盒炊飯
- 17:00 : キャンプファイヤー
- 22:00 : 入浴・就寝

無趣味、無気力、部活も無所属、友達の数は片手未滿、休日は自宅にこもるインドア派、汗をかくことと子どもが嫌い。それが、高校生までの私でした。

そんな私が大学生になり所属することになったのは、「AOA 愛知野外活動協会」といって、夏を中心にキャンプ場にやってくる子どもたちと元気に楽しくキャンプをするボランティア団体。それまでの生活とは真逆とも言えるこの環境に飛び込むことになったのは、大学で最初にできた友人からの誘いのおかげでした。「今度の休日、こんなキャンプがあるらしいんだけど、一緒に行ってみない?」友人にそう言われながらAOAのピラを渡された私は、大学に入ったばかりで特に予定もないし、せっかく誘ってもらったのだから一度は行ってみよう、と気軽な気持ちで参加しました。

AOAは4年制大学・短期大学・専門学校に通っている18歳以上の学生であれば誰でも入会することができるボランティア団体です。キャンプに参加した私は、それまで味わったことのなかった多くの出会いに刺激を受け、気付けばAOAの活動に参加し続けていました。

AOAの活動は、7月から9月のシーズンと呼ばれる期間が中心です。この2ヶ月間は常に1人以上がキャンプ場に滞在し、子どもたちが来る日には一緒に飯盒炊飯やキャンプファイヤーを、子どもたちが来ない日にはキャンプ場の清掃や木の伐採を住み込みで行います。参加を強制されることはなく、事前に連絡さえすれば、好きな時に子どもたちとのキャンプに参加でき、子どもたちとのキャンプがない期間に帰宅することも自由です。子どもたちとのキャンプが終わるたびに一旦帰る人もいれば、2週間以上キャンプ場に滞在し続ける人もいます。そのため、キャンプ場にいるメンバーは常に入れ替わり、朝から晩まで賑やかに活動しています。その間、食事を作るのも、洗濯をするのも、子どもたちとのキャンプのプログラムを考えるのも、夜な夜な星空の下で誰と何を語り合うのかも、決めるのはすべて自分たちです。

高校時代は子どもが嫌いだった私ですが、それは正確に言えば、ただおっくうになって小さな子どもと接する機会を避けていただけなのです。人との出会いを感じることも、大空の下で思いっきり汗をかくことも、子どもたちと触れ合うことも、それまで無意識の内に遠ざけていただけで、実際に体験してみると思っていたよりもずっと心地の良いものでした。AOAは学生が活動の中心ですが、社会人になった人たちもOB・OGとして参加してくれることがあります。さまざまな学校や年代の人と関わることで、個人の意見のみでなく別の視点からの意見を聞くことができ、私にとっては自らを成長させてくれる最高の場所です。

